

南さつま市は14日、県内初となる自動運転バスの実証実験を始めた。操作の一部をシステムが担う「レベル2」相当で実施し、市役所を起点に市街地を1日5往復する。運転手不足などで公共交通維持が困難となる中、持続可能な交通体系確保や地域活性化を図る。将来的には無人運転可能な「レベル4」を目指す。バスは全長約4・8m、高さ約2・7mの電気自動



自動運転バス 快走

南さつま 県内初の実証実験



自動運転バスに乗り込む小学生ら
＝14日午前、南さつま市役所

車で、3次元地図をもとに時速20km未満で走る。車両はマクニカ(横浜市)、運行はNTT西日本鹿児島支店(鹿児島市)が担う。乗客は最大9人。駐車車両がある道路など安全走行が難しい場面では人が操作する。市役所に遠隔監視拠点を設け、車内外をカメラで見守る。事業費は約5千万円で国の補助を活用。ラッピングデザインは地元の鳳凰高校生が考えた。市役所であった式典には塩田康一知事ら約100人が参加。本坊輝雄市長は「通

院や通学など市民生活でどう支えるかが課題。小さな町の大きな挑戦として夢と希望を託したい」と語った。試乗した加世田小学校5年有村颯晃さんは「未来的な車で乗り心地も最高」と話した。期間は2週間。アプリで予約し無料で乗車できる。

2024年12月15日付1面

【問1】 県内初の自動運転バスの実証実験を始めたのはどこの市でしょう。

南さつま市

【問2】 「レベル2」とは、どんな内容なのでしょう。13字で書きぬきましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

操作の一部をシステムが担う

【問3】 市役所を起点に市街地を1日何往復するのでしょうか。

5往復

【問4】 将来的に目指す「レベル4」とは、どんな内容なのでしょう。漢字6字で書きぬきましょう。

--	--	--	--	--	--

無人運転可能

【考えてみよう】 身近な地域のバスやタクシーについて調べてみよう。

むずかしい漢字とことば

実証実験(じっ・しょう・じっ・けん)＝新しい技術やサービスを社会に導入する前に、その効果や課題、改善方法を確認する実験。

操作(そう・さ) 担(にな)う

実施(じっ・し) 往復(おう・ふく)

維持(い・じ) 困難(こん・なん)

可能(か・のう) 体系(たい・けい)

確保(かく・ほ) 地域活性化(ち・い
き・かつ・せい・か) 将来(しょう・らい)

横浜(よこ・はま) 支店(し・てん)

駐車(ちゅう・しゃ) 難(むずか)しい

遠隔(えん・かく) 監視(かん・し)

拠点(きょ・てん) 設(もう)け

費(ひ) 補助(ほ・じょ)

鳳凰(ほう・おう) 支(ささ)える

挑戦(ちょう・せん)

夢(ゆめ) 託(たく)す

